# ITSMでのCatalyst Center Automation(SWIM)イベントのモニタ

# 内容

はじめに

<u>背景説明</u>

Cisco Catalyst Center-ITSM(ServiceNow)の統合

アーキテクチャ: Automation Event(SWIM)

SWIMの自動化ワークフロー: ハイレベルアーキテクチャ

SWIMの自動化ワークフロー: Under the Hood

<u>イベントフロー: Catalystセンター</u>

<u>イベントフロー: ITSM(ServiceNow)</u>

Automation Event(SWIM)バンドルの設定

自動化イベント(SWIM)ワークフローの実行

**Catalyst Center** 

<u>ITSMサービスナウ</u>

自動化イベント(SWIM)ワークフロー実行の検証

## はじめに

このドキュメントでは、Catalyst Center(CatOS)とITSM(ServiceNow)の統合のSWIM使用例などのオートメーションイベントを監視する方法について説明します。

## 背景説明

このドキュメントでは、関係するコンポーネント、前提条件、イベントフロー、設定、ワークフローの実行、およびトラブルシューティングシナリオを始めとする、SWIMのクローズドループ動作に関するすべての詳細を取り上げます。このドキュメントは、Cisco DNA AppがServiceNowインスタンスにインストールされている場合に関連します。

SWIMイベント用のServiceNowとのクローズドループの統合により、チケットの作成、承認、クローズプロセスの実装を自動化できます。SWIMのアップデートのためにオープンされた変更要求は、ServiceNowの変更オーナーによって承認/拒否され、チケットは承認ステータスに基づいて次の状態に移行します。

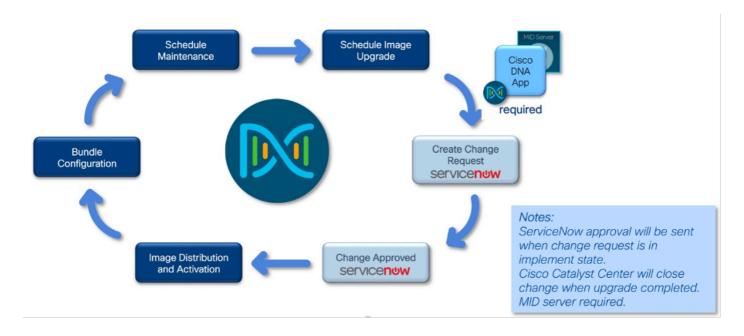
# Cisco Catalyst Center-ITSM(ServiceNow)の統合

Catalyst CenterとITSMの統合の詳細については、次のTechZoneを参照してください。

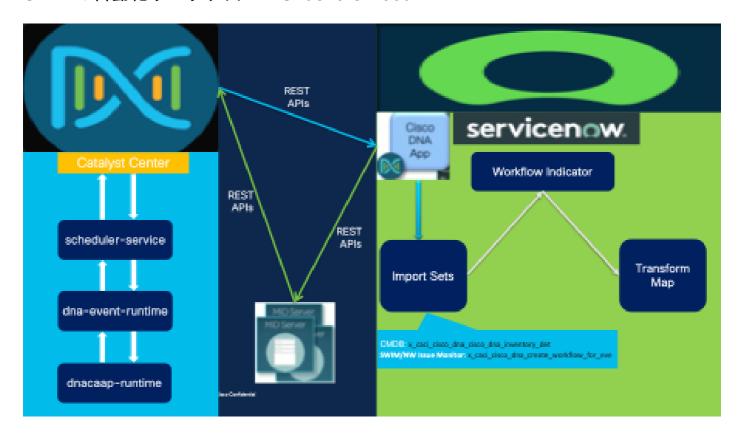
Catalyst CenterとITSMの統合のスコープの基本コンセプト

# アーキテクチャ: Automation Event(SWIM)

SWIMの自動化ワークフロー:ハイレベルアーキテクチャ



### SWIMの自動化ワークフロー: Under the Hood



## イベントフロー: Catalystセンター

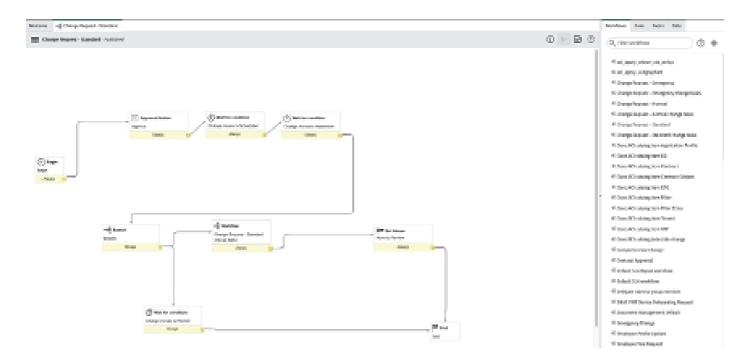
• Catalyst CenterのInventory DashboardからSWIMイベントがスケジュールされると、Taskが作成され、scheduler-serviceによってスケジュールされます。このタスクの詳細は、

dnacaap-runtimeサービスによってServiceNowインスタンスに送信されます。次に、 Catalyst Centerは、ServiceNowインスタンスにインストールされているCisco DNAアプリ ケーションに対してREST APIコールを実行します。

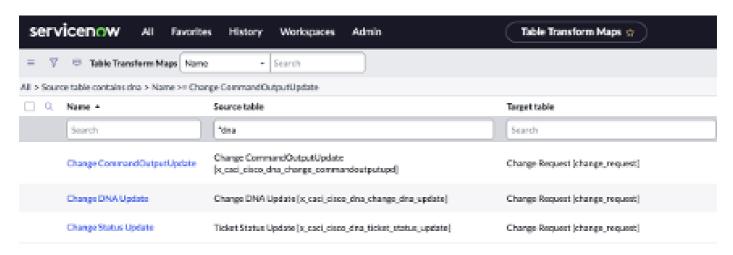
- ServiceNowインスタンスはこのイベントを受信し、Cisco DNA AppはCisco DNA Centerによって公開されたネットワークSWIMイベントの変更要求ワークフローを自動的にトリガーします。この変更要求は、ネットワーク運用チームがレビューし、変更要求のステータスをさらに更新する必要があります。
- 変更チケットがスケジュール済み状態の場合、「変更リクエスト」の「承認ステータス」属性は必須です。ServiceNow管理者/ネットワーク運用チームがスケジュール期間に提供する承認/拒否は、チケットの進行に不可欠です。チケットが実装状態に移行すると、ServiceNowでトリガーが発生し、提供された承認に基づいてイメージの配布とアップグレードを開始するようCisco Catalyst Centerに通知されます。
- Catalyst Centerは、指定されたスケジュール時間にSWIMアクティビティをトリガーし、タスクが正常に完了すると、クローズドループ自動化ワークフローを介して変更要求が ServiceNowでクローズされます。

### イベントフロー: ITSM(ServiceNow)

- Cisco Catalyst CenterでスケジュールされたSWIMイベントは、ServiceNowのServiceNowインポートセットAPIまたはスクリプトREST API、あるいはServiceNowの汎用REST APIエンドポイントを使用してServiceNowにプッシュされます。データがポストされるインポートセットテーブルはx\_caci\_cisco\_dna\_create\_workflow\_for\_eveです。
- イベントコンフィギュレーションで設定されたワークフローインジケータ値に基づいて、変換スクリプトに基づいてServiceNowで変更リクエストが作成されます。
- DNAのすべてのSWIMイベントレコードには、ServiceNowでイベントが実行されるワークフローの種類を決定するワークフローインジケータが関連付けられています。このスニペットは、ワークフローインジケータの例です。



ワークフローインジケータの決定に基づいて、トランスフォームマップの1つが実行され、 ステージングテーブルのデータが解析されて、SWIMイベントの場合はChangeという適切 なターゲットテーブルにマッピングされます。



ターゲットアーティファクト内のCisco DNA Appは、Cisco Catalyst Centerからのネットワークデバイスの詳細によってITSM変更要求を強化します。Cisco DNAアプリは、ユーザが作成したチケットのデバイス、問題、ユーザ、クライアントなどのさまざまなタイプのエンリッチメント情報を取得するために、Cisco Catalyst CenterにREST APIコールを行います

# Automation Event(SWIM)バンドルの設定

Cisco DNA Center Automation events for ITSM(ServiceNow)バンドルは、Cisco DNA Centerからトリガーされたソフトウェアイメージの更新に関連するイベントを取得します。その後、このバンドルは繰り返しスケジュールに従ってイベントデータをITSM(Service Now)システムに公開します。 イベントデータは、ServiceNowのEventテーブルにパブリッシュできます。

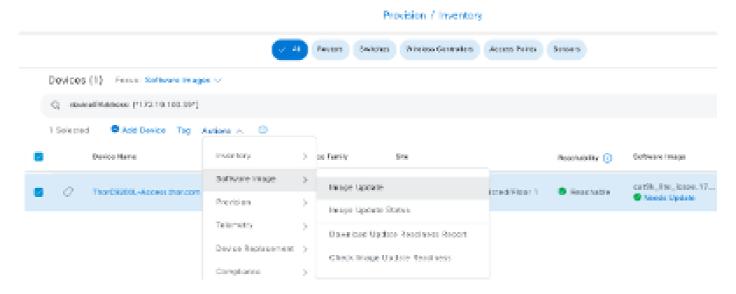
Automation Event(SWIM)バンドルの設定については、『<u>Cisco DNA Center ITSM統合ガイド、リ</u>

<u>リース2.3.5</u>』の「Cisco DNA Center Automation Events for ITSM(ServiceNow)バンドルの設定」セクションを参照してください。

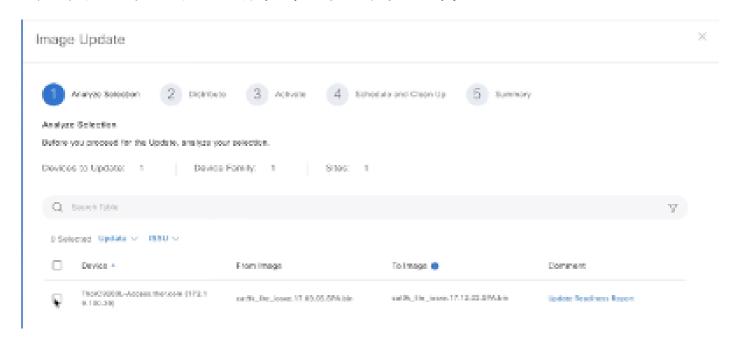
# 自動化イベント(SWIM)ワークフローの実行

## **Catalyst Center**

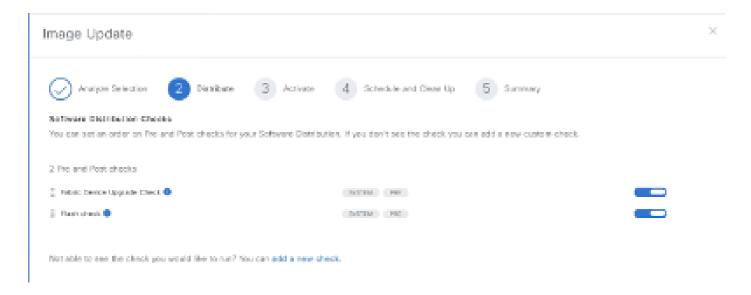
1. a. Inventoryに移動し、Device > Actions > Software Image > Image Updateの順に選択します。



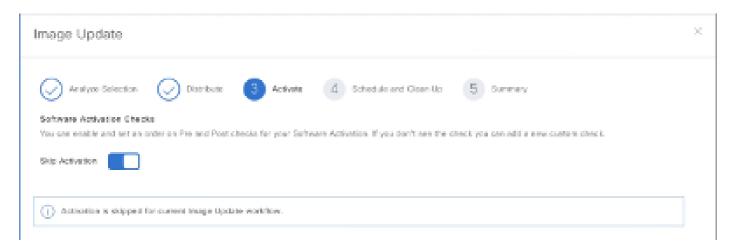
b.アップグレードをスケジュールするデバイスを選択します。



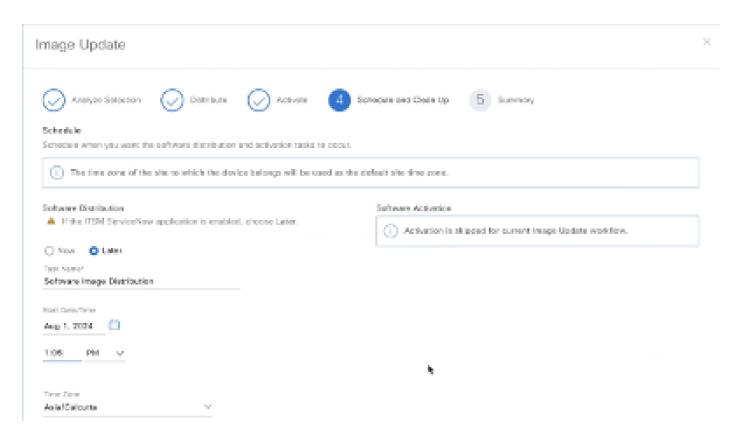
c. Image Distributionのチェックを有効にします。



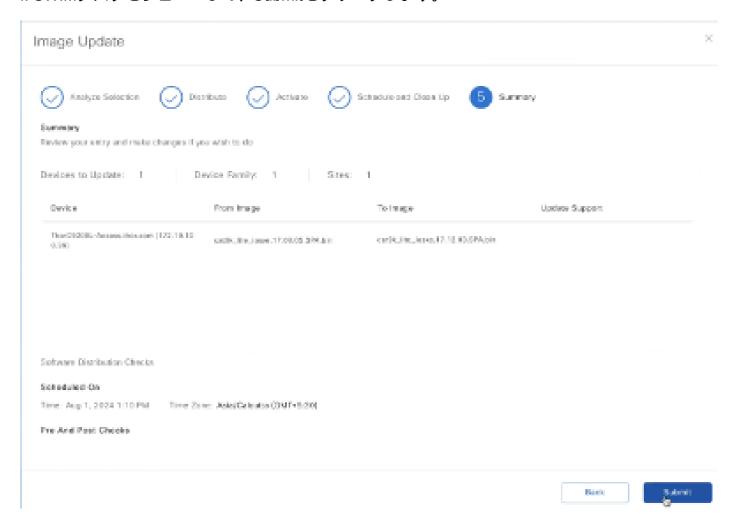
d. イメージのアクティブ化をスキップするかどうかを選択します。



e.イメージ配布のスケジュールを設定します。

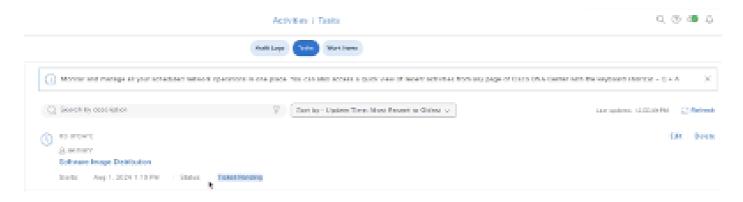


f. SWIMタスクをレビューして、Submitをクリックします。

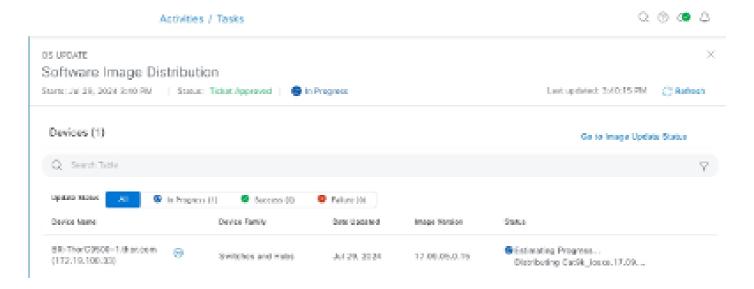


ii. a.スケジュールされたSWIMタスクがActivities > Tasksの下に、Ticket Pending状態でリストさ

#### れています。

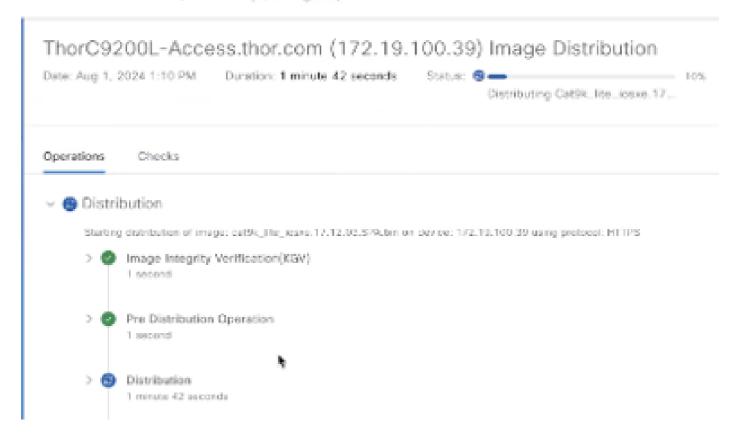


b.変更チケットがServiceNowで承認され、Implement状態に移行している場合、Catalyst CenterのそれぞれのタスクステータスはTicket Approvedに変わります。

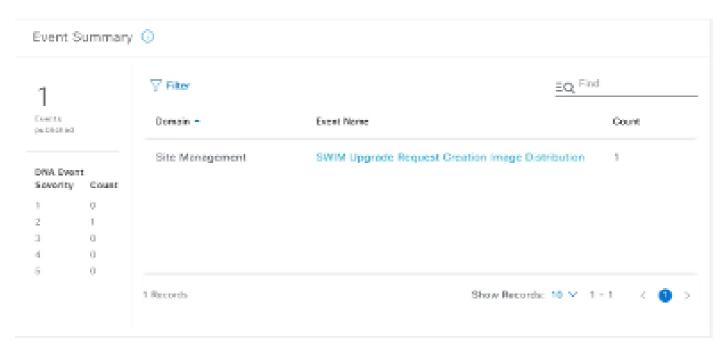


c.イメージ配布は、スケジュールされた時間に自動的にトリガーされます。

#### Provision / Inventory / Image Update Status



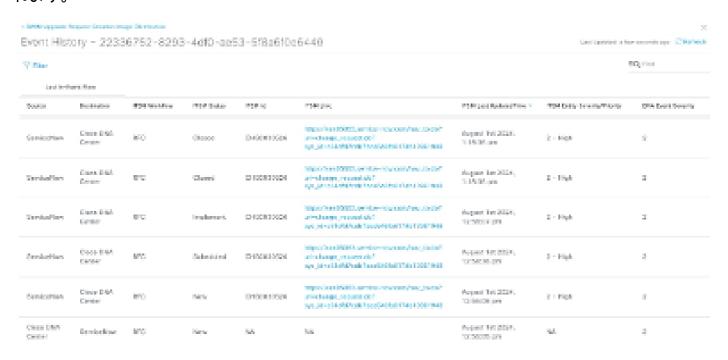
iii.a.スケジュールされたSWIMタスクは、Catalyst CenterのPlatform Runtimeダッシュボードにイベントとしてリストされます。



b.スケジュールされたSWIMタスクは、変更要求のChange Request IDとServiceNowリンクを取得します。



c. ServiceNowの変更要求チケットのステータスに応じて、変更要求のITSMステータスが更新されます。



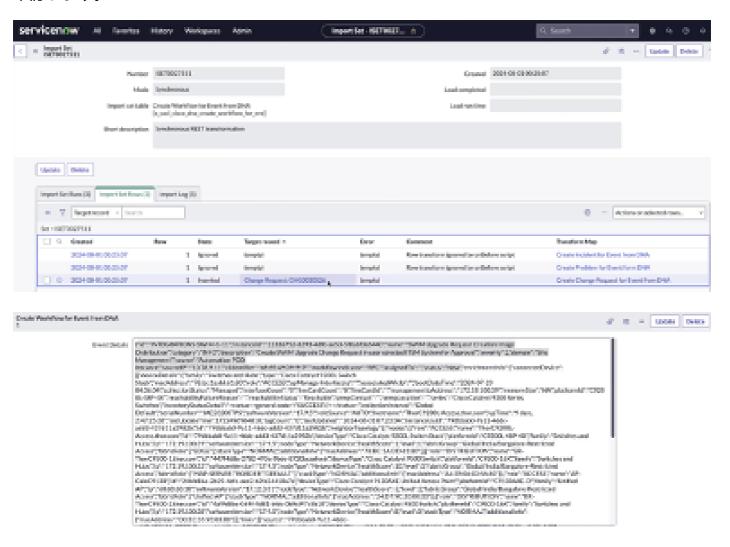
## ITSMサービスナウ

Cisco Catalyst CenterからのSWIMイベントは、Import Set Table of ServiceNowによって受信されます。データは、ServiceNowのServiceNowインポートセットAPI、スクリプトREST API、またはServiceNowの汎用REST APIエンドポイントを使用してServiceNowにプッシュされます。

- Cisco Catalyst CenterからServiceNowに投稿されたデータを確認するには、Import Setsに 移動し、x\_caci\_cisco\_dna\_cisco\_dna\_inventory\_detテーブルのImport Set Entryを見つけます。
- 1. インポートセットダッシュボードで、テーブル x\_caci\_cisco\_dna\_cisco\_dna\_inventory\_detのインポートセットエントリをフィルタで除外 します。

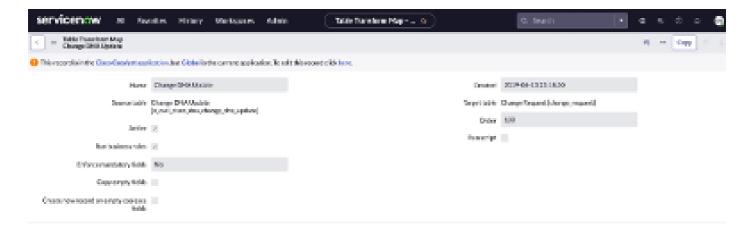


ii.インポート・セットの詳細を確認し、インポート・セットの行に該当するインシデント番号を確認します。

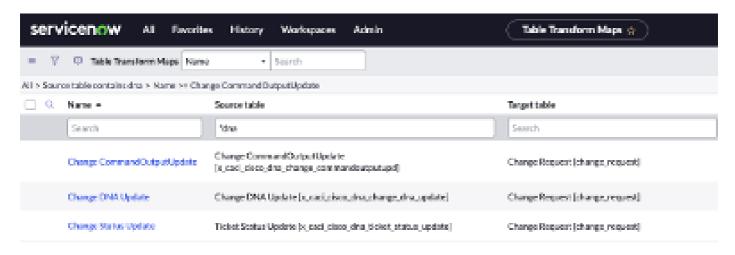


iii.ワークフローインジケータは、ServiceNowでイベントが実行するワークフローの種類を決定します。ワークフローインジケータの決定に基づいて、トランスフォームマップの1つが実行されます。

iv.トランスフォームマップの詳細を確認するには、インポートセット行のトランスフォームマップ列のハイパーリンクをクリックします。

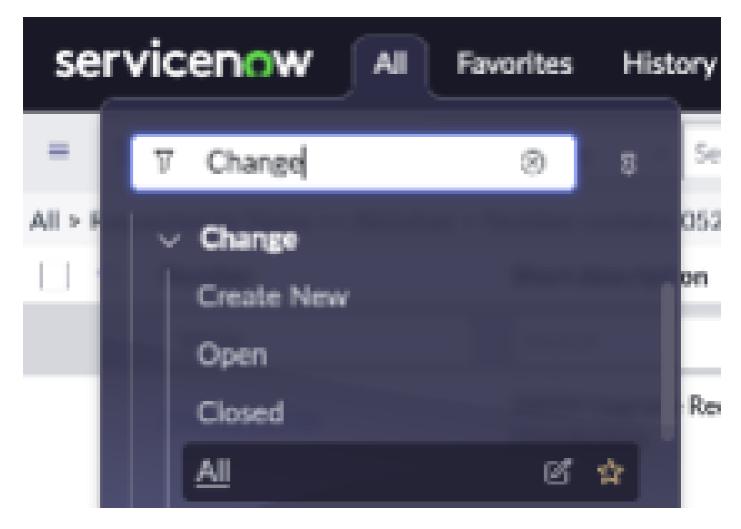


## オートメーションイベント(SWIM)の変換マップテーブル:



# 自動化イベント(SWIM)ワークフロー実行の検証

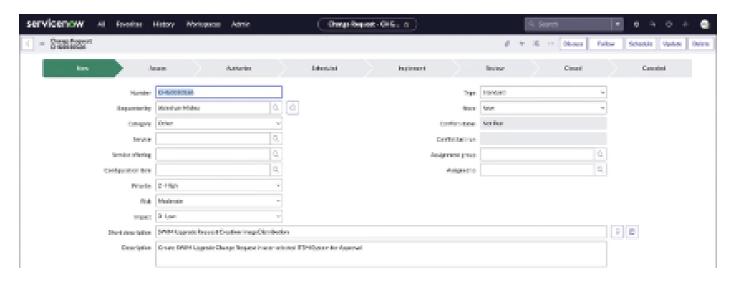
- SWIMワークフローのスケジュールが正常に行われると、変更要求が作成され、SWIMアップグレードがスケジュールされたデバイスの詳細情報が示されます。
- 1. グローバル検索>変更>すべて



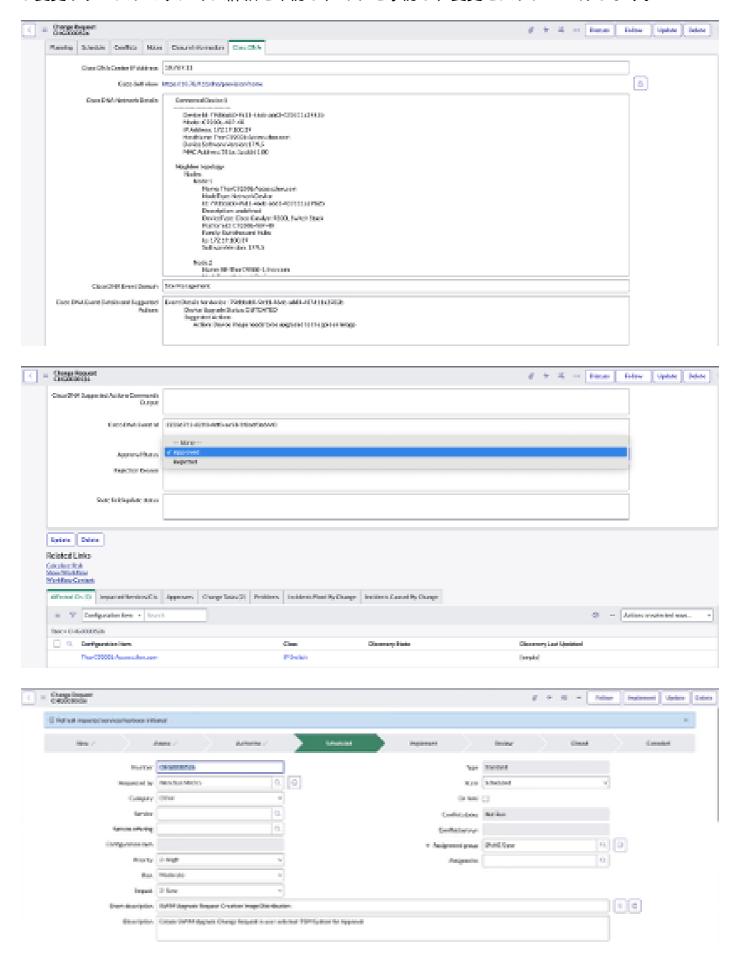
ii. 変更リクエストダッシュボードから変更リクエストをフィルタリングします。



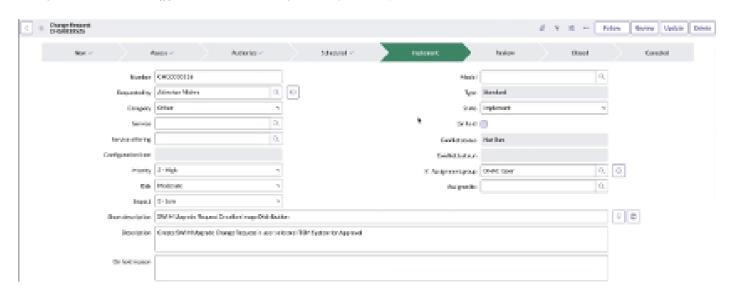
iii. a. 変更要求をクリックしてリクエストチケットの詳細を表示します。



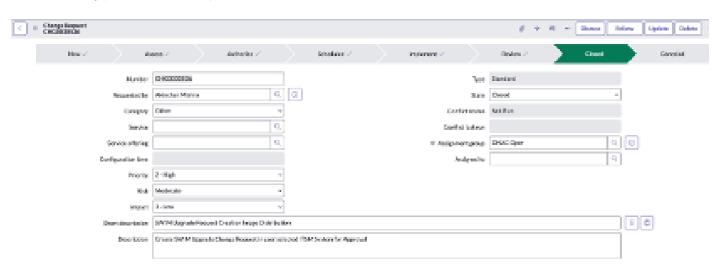
#### b.変更リクエストのデバイス詳細を確認し、それを承認し、変更をスケジュールします。



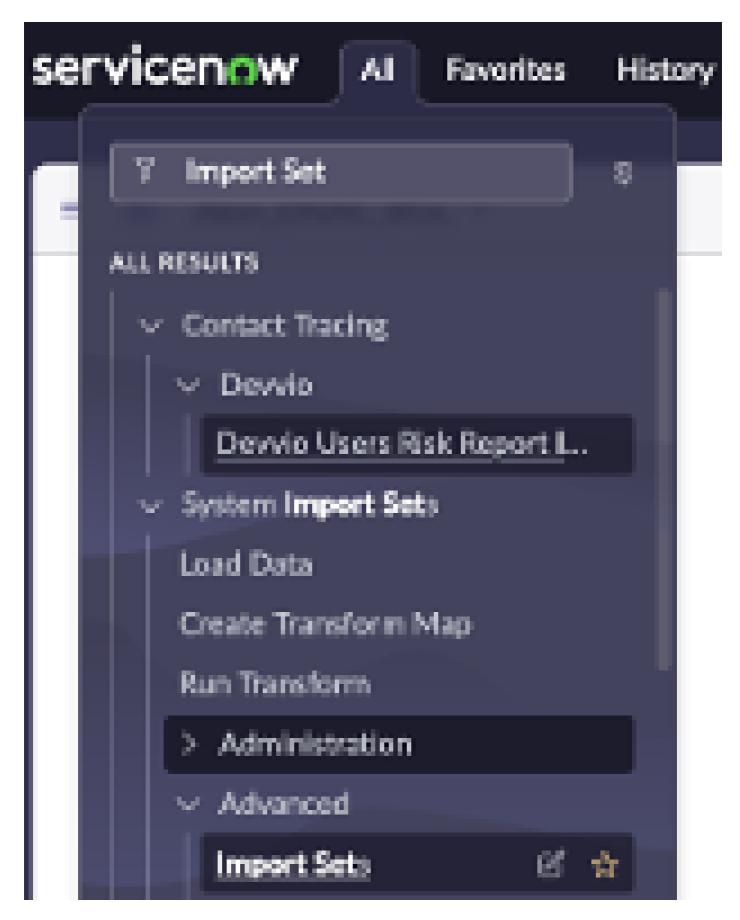
c.変更リクエストの詳細を確認し、変更を実装します。



d. SWIMワークフローが正常に完了すると、変更要求はクローズドループ自動化によって自動的にクローズ状態に移行します。



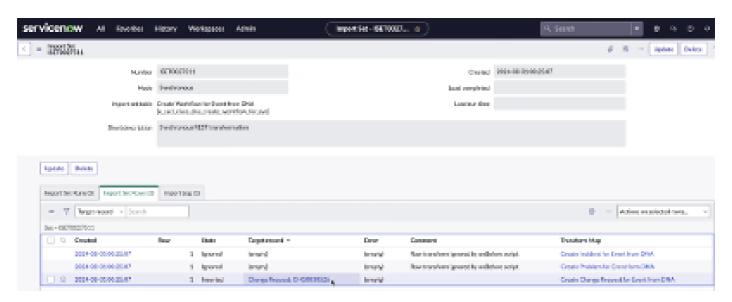
- SWIMイベントのためのインポートセットの実行:
- 1. 「グローバル検索」>「全結果」>「システム・インポート・セット」>「拡張」>「インポート・セット」にナビゲートします。



ii.インポートセットを識別し、選択して詳細を確認します。



iii. 「インポート・セットの詳細」で、「インポート・セットの実行」と「インポート・セットの行」を確認します。



iv.変更リクエストのインポートセット行エントリをクリックすると、デバイスの仕様やバージョンなどのSWIMイベントの詳細が表示されます。



## 関連情報

- Catalyst CenterとITSMの統合のスコープの基本コンセプト
- Catalyst CenterインベントリとServiceNow CMDBシステムの同期
- ITSM用のCatalyst Center Network Issue Monitor and Enrichmentの使用

## 翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版(リンクからアクセス可能)もあわせて参照することを推奨します。